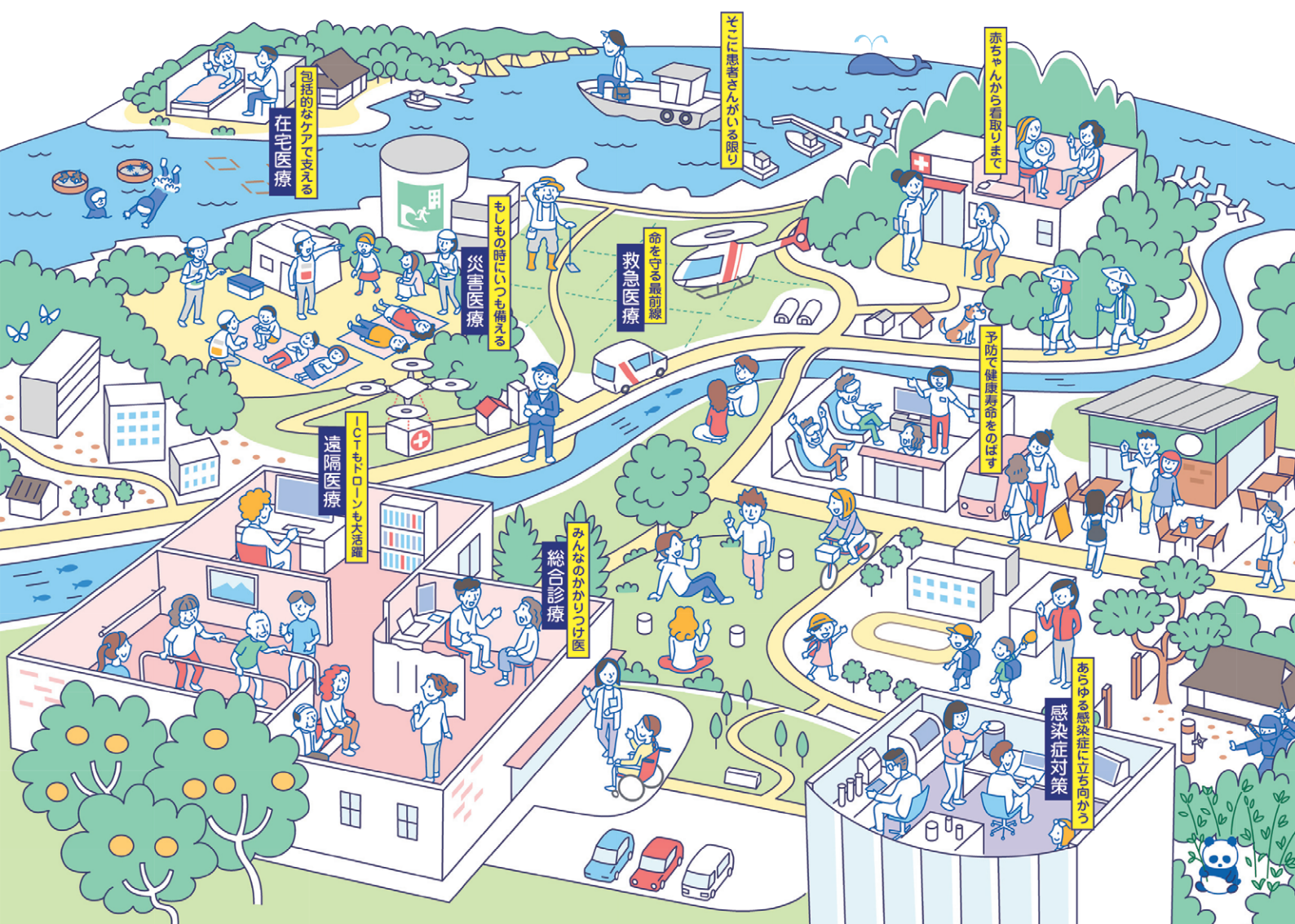




黒潮医療人材養成プロジェクト

令和4年度 事業報告書

(令和4年9月～令和5年3月)

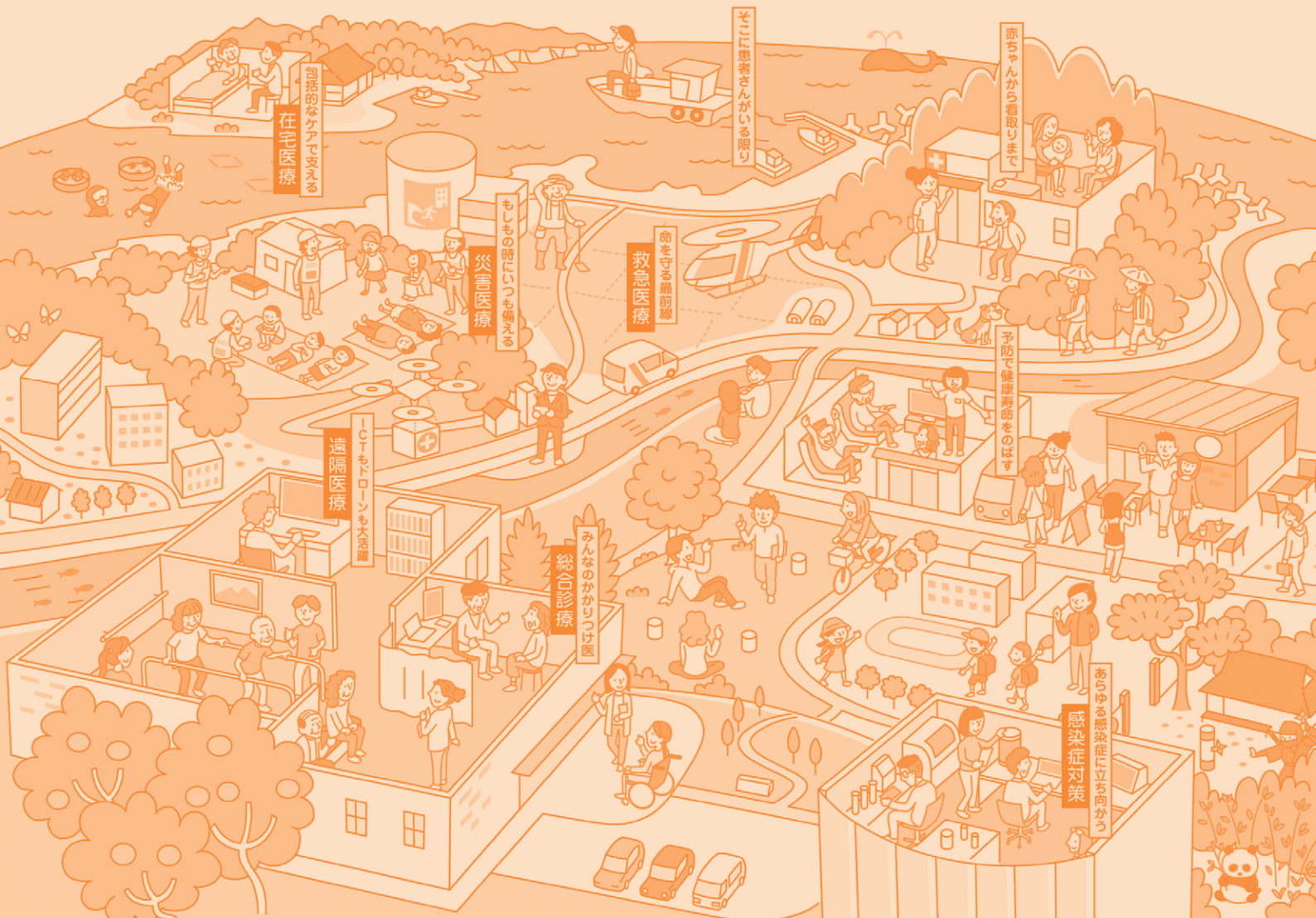




I	黒潮医療人養成プロジェクト事業概要	2
1.	黒潮医療人養成プロジェクトとは？	2
2.	地域医療人材養成拠点病院	3
3.	教育プログラム	3
4.	達成目標	6
II	事業実施・評価の体制	8
1.	事業実施体制	8
2.	事業評価体制	10
III	事業実施状況報告	12
1.	教育プログラム	12
①	高知大学	12
②	和歌山県立医科大学	14
③	三重大学	16
2.	大学間連携事業	19
①	e-learning	19
②	合同シンポジウム	21
③	学生相互派遣・交流	28
④	サイトビジット	28
3.	学生の地域志向性に関する調査・研究	31
4.	ウェブサイト	34

I

黒潮医療人養成プロジェクト 事業概要



I 黒潮医療人養成プロジェクト事業概要

1. 黒潮医療人養成プロジェクトとは？

本プロジェクトは文部科学省のポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業[※]として採択された7年間の事業です。高知大学を代表校として、和歌山県立医科大学、三重大大学とともに地域ニーズに応える総合的な能力を有する「黒潮医療人」を養成することを目標としています。

三大学の立地する3県は、太平洋に面し長い海岸線を有するという地形的な特徴、温暖で多雨という機構的な特徴も類似しています。医療面においては、県中心部より遠隔地の過疎高齢化の進展という共通課題があります。さらに、南海トラフ巨大地震の震源域にあり、発災時には大きな津波被害が想定され、災害医療、公衆衛生において大きな地域ニーズが発生することが予測されています。こうした共通課題について行政、地域医療機関とも連携して、より深く学ぶことができるよう学部教育の継続的な改善を目指すものです。

※ 文部科学省 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業


新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、地域における医療体制の見直しや医師の地域偏在及び診療科偏在を解消する重要性が再認識されるとともに、高度医療の浸透や地域構造の変化（総合診療医の需要の高まり、難治性疾患の初期診断・緩和ケアの重要性等）を踏まえた新時代に適応可能な医療人材の養成といった課題が浮き彫りとなったところ、これらの課題解消に資するためにも、地域にとって必要な医療を提供することができる医師を養成するための学生への学部段階からの動機づけ・資質能力の育成を図る実習・講義等の教育プログラムの更なる充実が求められています。

本事業は、大学医学部における養成課程の段階から医師の地域偏在及び診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するため、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としています。（ウェブサイトより引用）

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

令和4年度予算額

8億円
(新規)




課題・背景

- 新型コロナウイルス感染症を契機に、医療人に**求められる資質・能力が大きく変化**。
- 高齢化の進展による**医療ニーズの多様化**や**地域医療の維持**の問題が顕在化。
- 高度医療の浸透や地域構造の変化（総合診療医の需要の高まり、難治性疾患の初期診断・緩和ケアの重要性等）**により、従来の医師養成課程では対応できていない領域が発生、**新時代に適応可能な医療人材の養成**が必要。

事業内容

- **医療ニーズを踏まえた地域医療等に関する教育プログラムを構築・実施**
 - ◆ 地域ニーズの高い**複数分野（総合診療、救急医療、感染症等）を有機的に結合させ横断的に学ぶことのできる教育の実施**により、地域医療のリーダーとなる**人材の育成**。
 - ◆ **地域医療機関での実習等**を通じて、
 - ① 地域の課題を踏まえた教育研究の実現や地域医療への関心を涵養
 - ② 専門に閉じない未分化・境界領域への対応力を涵養
 - ◆ **オンデマンド教材等**の教育コンテンツの開発

<地域医療の課題やニーズを踏まえた教育>



◆ 地域医療現場を常に意識した教育・実習

◆ 地域の病院と大学病院の双方を経験・地域医療の課題を理解

◆ オンデマンド教育の充実

<オンデマンド教育の充実>

社会環境の変化に対応できる資質・能力を備えた医療人材養成のための教育プログラムの開発及び教育・研究拠点の形成

支援期間： 7年間
単 価： 0.7億円
件 数： 11拠点（拠点大学を中心に医学部を置く国公立大学間で連携・展開）

政策提言（経済財政運営と改革の基本方針2021）

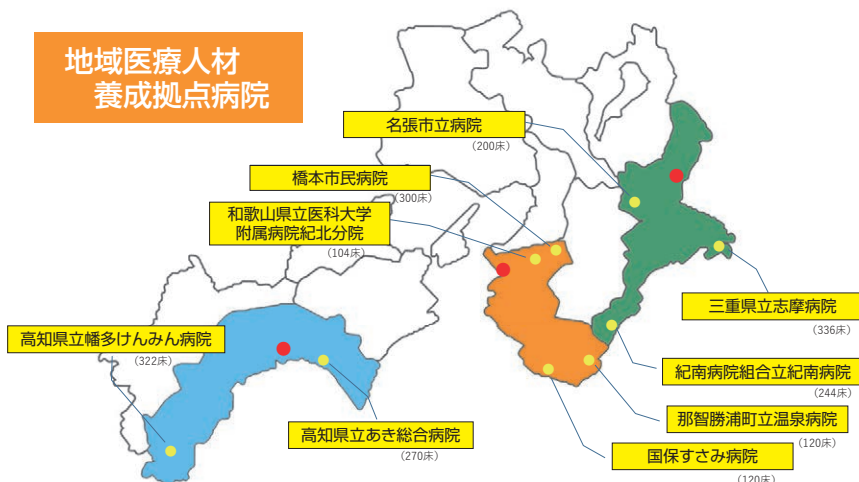
第3章 感染症で顕在化した課題を克服する経済・財政一体改革

(1) 感染症を機に進める新たな仕組みの構築

(略)あわせて、今般の感染症対応の検証や(略)潜在看護師の復職に係る課題分析及び解消、**医学部などの大学における医療人材養成課程の見直しや医師偏在対策の推進**などにより、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の整備を進める。

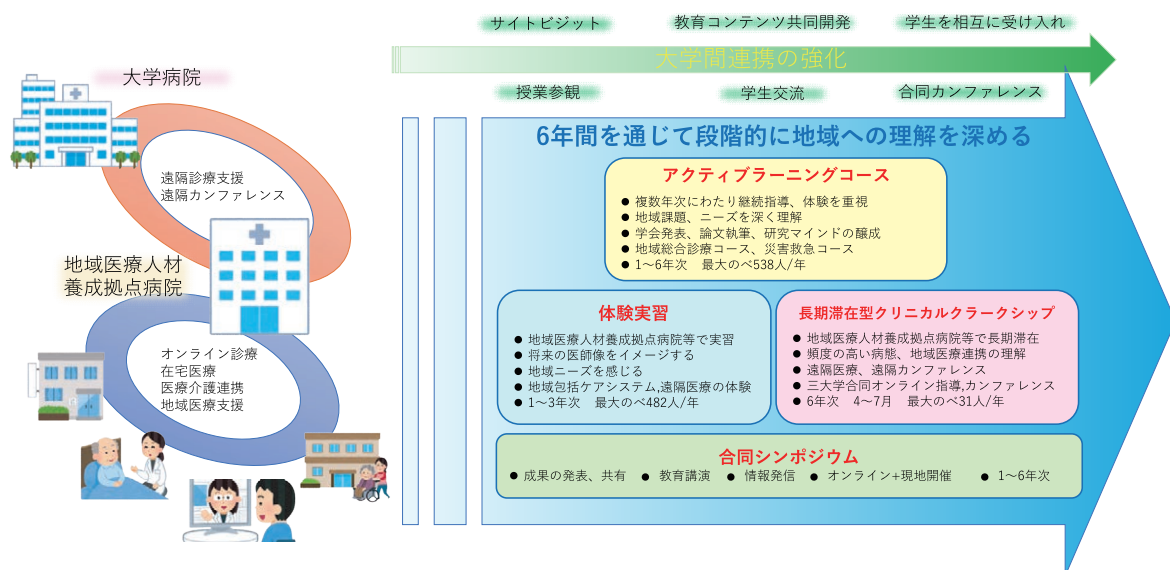
2. 地域医療人材養成拠点病院

本プロジェクトでは、大学外の地域の医療を担う病院を地域医療人材養成拠点病院と位置づけ、体験実習や長期滞在型臨床ラークシップの実習を展開します。これらの病院には、地域卒卒業医師も多く勤務しており、キャリア教育の面からも期待されます。



3. 教育プログラム

本プロジェクトでは、①体験実習、②アクティブラーニングコース、③長期滞在型臨床ラークシップ（LIC）を各大学のカリキュラムに沿って実施していきます。これらの教育プログラムの実施には、地域医療人材養成拠点病院を学びのフィールドとして活用します。また、サイトビジット、授業の相互参観、e-learning コンテンツの共同制作、学生の相互交流などを積極的に進め、継続的に質の向上を目指します。また、年1回オンラインでの合同シンポジウムを開催し、相互交流を進める他、情報発信もおこないます。



地域ニーズに応える黒潮医療人

I. 事業概要

① 体験実習

低学年から地域医療人材養成拠点病院や地域に赴き、現場の医療を体験したり、地域診断等のプログラムを通して、地域のニーズを体験します。

大 学 名	対象学年 日程	人数 (年次)	内 容
高知大学	1 年次 2 月 / 8 日間	20 人	<ul style="list-style-type: none"> 大学病院での実習「臨床体験実習Ⅰ」「臨床体験実習Ⅱ」「臨床体験実習Ⅲ」を、地域医療人材養成拠点病院でも選択可能とする。
	2 年次 9 月 / 8 日間	20 人	<ul style="list-style-type: none"> 各病院に在籍する地域卒卒業医師（臨床研修医、専攻医）と学生がペアとなり、マンツーマンで直接指導を受ける。 救急受診、入退院支援、在宅医療など地域ニーズを理解できる内容を学ぶ。
	3 年次 2 月 / 8 日間	20 人	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップや地域踏破など、病院外の実習プログラムも含む。 全学生を対象とするが、希望者多数の場合は地域卒学生を優先する。
和歌山県立医科大学	2 年次 10 月 / 2 日間	6 人	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の一環である附属病院での病棟実習Ⅰ、病棟実習Ⅱを地域医療人材養成拠点病院等でも実施可能とする。 在籍する地域卒卒業医師とペアとなり直接指導を受ける。
	3 年次 2 月 / 2 日間	8 人	<ul style="list-style-type: none"> 地域卒学生が主であるが一般卒学生も選択可とする。 地域医療におけるコメディカルの役割、チーム医療についての理解を深め、医療の専門職としての役割の自覚と責任を感じる機会とし、モラル・人間性も身につける。
三重大学	1・2 年次 通年	205 人	<ul style="list-style-type: none"> 7～8 人のグループにわかれ、各グループが県内全 29 市町村のうちの 1 市町村に 2 年間継続して関わる。 1 年次は地域調査・地域診断を行い、2 年次には地域診断の結果に基づいて地域貢献活動を実施する。 全体講義、自己学習、グループ学習（教員・市町村担当者からの指導を含む）、実習により構成する。 看護学科との合同授業。

2 アクティブラーニングコース

複数年次にわたる能動的な調査・研究活動を通じ、地域課題をより高いレベルで理解します。

大学名	コース名	対象学年 日程	人数 (年次)	内 容
高知大学	地域総合 診療コース	2 年次～ 4 年次 通年 半日×2 回 / 週	5 人	<ul style="list-style-type: none"> ●先端医療学推進センター「地域総合診療・臨床疫学研究班」所属。 ●臨床現場での経験を通して、地域医療課題を抽出し、臨床疫学研究に取り組む。 ●3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆を行う。
	医療 DX コース		5 人	<ul style="list-style-type: none"> ●先端医療学推進センター「医療DX・データヘルス研究班」所属。 ●ICTを活用した遠隔医療、医療連携、多職種協働の現状について学習。 ●EHR (Electronic Health Record)、PHR (Personal Health Record) を活用した地域支援について学習する。 ●3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆を行う。
	災害救急 コース		10 人	<ul style="list-style-type: none"> ●先端医療学推進センター「感染・災害救急医療研究班」所属 ●救護所設営訓練、高知 DMAT 訓練等の災害訓練、津波避難タワー泊体験実習、高知市被災現場見学ツアーなどの体験を通して避難所での感染症予防対策、感染症・災害医療の知識を習得する。 ●3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆を行う。
和歌山県立 医科大学	地域総合 診療コース	1 年次～ 5 年次 5 日間 または 10 日間	5 人	<ul style="list-style-type: none"> ●地域医療の課題についての事前学習として、アクティブラーニング（問題基盤型学習（PBL）、チーム基盤型学習法（TBL）、Case-based Discussion（CBD）等）、グループワーク、オンデマンド教材により集中的に習得する。 ●学生の希望によりマッチングした地域拠点病院・保健所で実習。
	災害救急 コース	3 年次	10 人	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床医学系講義「救急医学」の中に、災害医療関連の講義1コマを組み込む。 ●夏期休業中に課外実習3コマを実施する；①津波関連施設の見学・体験、②避難所の設置・運営・応急手当、③避難所に関わる予防医学（感染症を含めて）。
三重大学	地域総合 診療コース	1 年次～ 6 年次	8 人	<ul style="list-style-type: none"> ●新医学専攻コース（1～6年次）、研究室研修（3～4年次）の枠組みで総合診療医養成を目的として、研究活動と能動的学習を拡充したコース。 ●4年次に学内での成果発表会で発表を行う。 ●6年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆を行う。
	災害救急 コース	3 年次～ 6 年次	125 人	<ul style="list-style-type: none"> ●PBL チュートリアル教育（3～4年次）において新興感染症事例を通して学ぶ。 ●感染症ユニット期間中に中部国際空港検疫施設での終日の実習（希望者20人）。 ●臨床実習前集中講義において感染症疫学シリーズを設定する。 ●全科ローテーション型臨床実習（4～5年次）・救急部ローテーションにおいて、感染症患者に対する救急対応をAR（Augmented reality 拡張現実）機器を活用して学習する。

③ 長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）

地域医療人材養成拠点病院で長期滞在型のクリニカルクラークシップをおこない、総合的な診療能力を身につけます。

大 学 名	対象学年 日程	人数 (年次)	内 容
高知大学	6 年次 4～7 月 4 週間以上	12 人	<ul style="list-style-type: none"> 総合診療、救急、感染症など地域ニーズに応えられる総合的な臨床能力を身に付ける。 外来・救急での初期対応から、入院診療、退院調整等、一人の患者に継続的に関わる。 救急、感染症などについて、オンラインでの指導、オンデマンド教材の視聴などにより学習。
和歌山県立医科大学	6 年次 4～7 月 3 週間	25 人	<ul style="list-style-type: none"> 入退院支援～在宅療養まで ICT システムを活用した多職種協働（情報共有、カンファレンス等）に参加。 大学病院・地域医療人材養成拠点病院との遠隔カンファレンス、地域医療人材拠点病院・診療所間のオンライン診療（Doctor to Doctor）、過疎地域の通院困難者を対象としたオンライン診療（Doctor to Patient with Nurse）など ICT を活用した診療に参加、見学。
三重大学	6 年次 4 ヶ月間	4 人	<ul style="list-style-type: none"> 院内での実習のみならず院外においても健康増進活動などの地域活動に関わる。

④ 合同シンポジウム

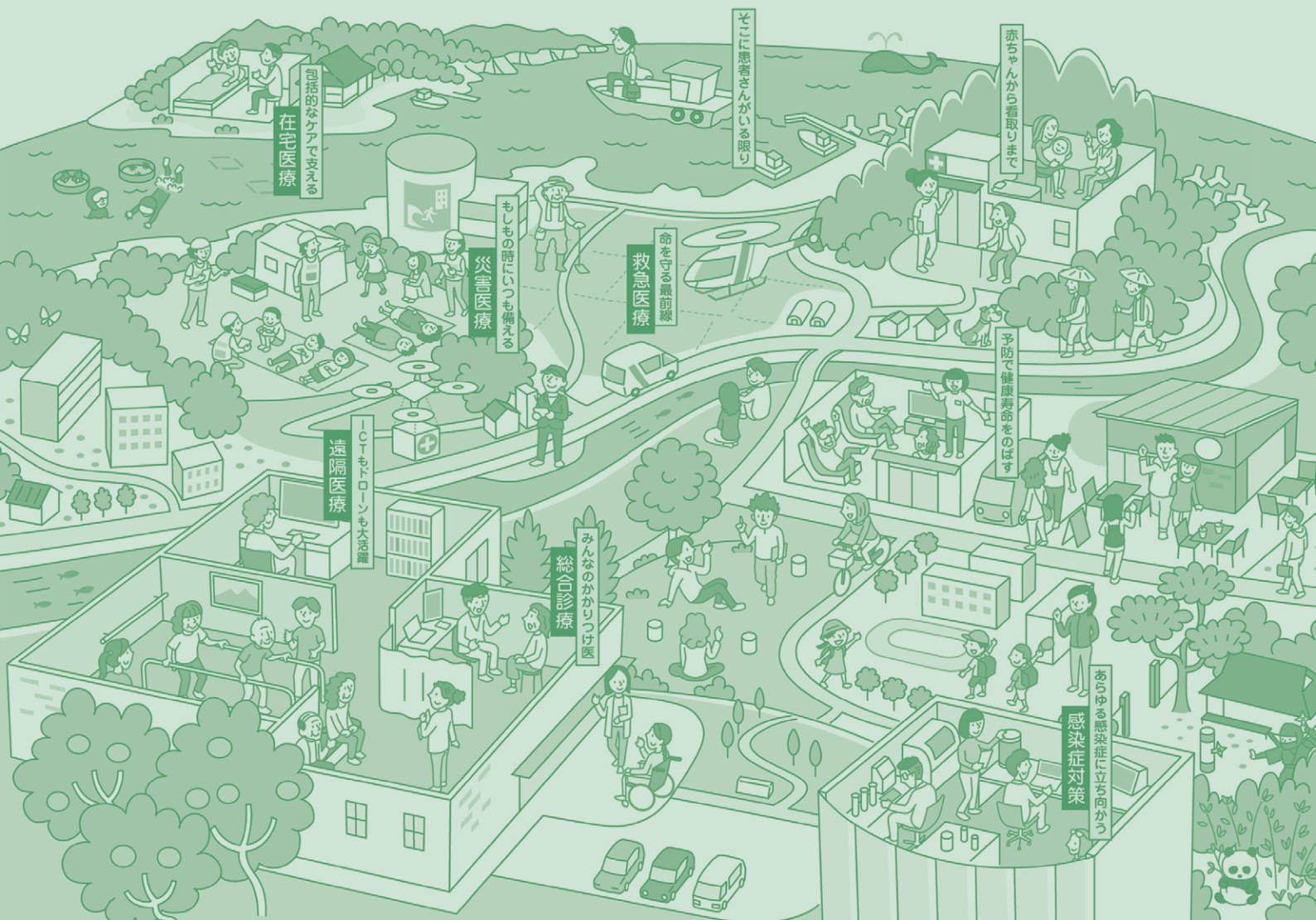
年に 1 回、三大学合同でオンラインシンポジウムを開催します。ハイブリッド形式での開催とし、現地参加する各大学の学生、教職員が事業成果を発表したり、意見交換したりするなど交流を深める場とします。また、行政、地域医療機関、高校生などにも広く参加を呼びかけ、本プロジェクトの理解を進めるとともに、地域志向性の高い医学生の入学を促す効果も期待されます。

4. 達成目標

6 年間にわたり継続的に学び、地域ニーズを深く理解した地域卒の学生が、診療科選択において、より地域ニーズの高い科を選択し、将来の医師偏在の緩和を目指します。具体的には、地域ニーズの大きいものの十分に養成の進んでいない総合診療科、救急科、感染症科を選択する地域卒卒業医師が増加することを達成目標とします。

II

事業実施・評価の体制



Ⅱ. 事業実施・評価の体制

Ⅱ 事業実施・評価の体制

1. 事業実施体制

各大学において、医学部長をリーダーとした実施体制を構築しています。各大学において事業の実務担当者、教務担当者、関連する講座の責任者、地域枠学生等からなる連携校事業推進委員会を年に2回以上開催し、事業の実施計画の策定、進捗状況の確認、プログラム評価、目標達成のベンチマークなどをおこないます。必要に応じて、地域医療人材養成拠点病院の担当者、行政関係者も委員に加えるものとします。事業の円滑な実施のために、実務を担当する教員および事務員を各1名配置します。

事業全体としては、各大学の医学部長、実務担当者からなる事業推進委員会を年1回開催し、大学間の調整の他、年間計画の策定、予算の執行状況の確認をおこないます。

■ 事業推進委員会

	氏 名	役 職
委員長	降 幡 睦 夫	高知大学医学部長
副委員長	伊 東 秀 文	和歌山県立医科大学医学部長
	堀 浩 樹	三重大学医学部長 医学・看護学教育センター長
委 員	瀬 尾 宏 美	高知大学医学部医学科長 高知大学医学部附属病院総合診療部教授
	阿波谷 敏 英	高知大学医学部家庭医療学講座教授 高知地域医療支援センター副センター長
	上 野 雅 巳	和歌山県立医科大学地域医療支援センター長・教授
	村 田 顕 也	和歌山県立医科大学教育研究開発センター長・教授
	西 村 有 平	三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野教授 医学部教務委員長
	成 田 正 明	三重大学大学院医学系研究科発生再生医学分野教授 医学部入試委員長
	前 田 博 教	高知県立あき総合病院院長
	浅 野 圭 二	高知県健康政策部医療政策課課長

■ 第1回黒潮医療人養成プロジェクト事業推進委員会

日 時：令和5年2月24日（金）18：00～19：00

開催方法：ウェブ会議（Zoom）

参 加 数：委員10人

■ 高知大学連携校事業推進委員会

	氏 名	役 職
委員長	降 幡 睦 夫	高知大学医学部長
委 員	瀬 尾 宏 美	高知大学医学部医学科長 高知大学医学部附属病院総合診療部教授
	阿波谷 敏 英	高知大学医学部家庭医療学講座教授 高知地域医療支援センター副センター長
	宮 野 伊知郎	高知大学医学部医療学 / 予防医学・地域医療学分野（公衆衛生学）准教授
	西 山 謹 吾	高知大学医学部災害・救急医療学講座教授
	山 岸 由 佳	高知大学医学部臨床感染症学講座教授
	佐 田 憲 映	高知大学医学部臨床疫学講座教授
	藤 田 博 一	高知大学医学部附属医学教育創造センター教授
	中 尾 裕 貴	高知大学医学部家庭医療学講座特任助教
	西 田 浩 敏	高知大学医学部病院事務部部长
	秋 田 早央里	医学科3年生
	林 大 翔	医学科2年生
	小 島 佳 奈	医学科1年生
	的 場 俊	高知県立あき総合病院総合内科部長
	川 村 昌 史	高知県立幡多けんみん病院内科部長（総括） 研修管理センター長

■ 和歌山県立医科大学連携校事業推進委員会

	氏 名	役 職
委員長	伊 東 秀 文	和歌山県立医科大学医学部長
副委員長	上 野 雅 巳	和歌山県立医科大学地域医療支援センターセンター長・教授
	村 田 顕 也	和歌山県立医科大学教育研究開発センターセンター長・教授
委 員	蒸 野 寿 紀	和歌山県立医科大学地域医療支援センター副センター長・講師
	中 村 有 貴	和歌山県立医科大学地域医療支援センター助教
	谷 本 貴 志	和歌山県立医科大学教育研究開発センター准教授
	森 めぐみ	和歌山県立医科大学教育研究開発センター助教
	廣 西 昌 也	和歌山県立医科大学附属病院紀北分院分院長・教授
	加 藤 正 哉	和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座教授
	田 村 志 宣	和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座准教授
	小 泉 祐 介	和歌山県立医科大学臨床感染制御学講座教授
	谷 口 善 郎	和歌山県立医科大学事務局長
	板 谷 輝 平	医学部5年生
	岩 田 拓 巳	医学部4年生
	北 畑 亮 歩	医学部4年生
	山 路 千 咲	医学部4年生
	駿 田 直 俊	橋本市民病院院長
	高 垣 有 作	国保すさみ病院院長
	中 紀 文	那須勝浦町立温泉病院院長

Ⅱ. 事業実施・評価の体制

■ 三重大学連携校事業推進委員会

	氏 名	役 職
委員長	西 村 有 平	三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野教授 医学部教務委員長
委 員	堀 浩 樹	三重大学医学部長 医学・看護学教育センター長
	竹 内 佐智恵	看護学科教務委員長 成人看護学教授
	水 野 修 吾	三重大学医学部附属病院副病院長（教育・地域連携担当） 肝胆膵・移植外科教授
	鈴 木 圭	三重大学医学附属病院感染症内科科長病院教授
	山 本 憲 彦	三重大学医学附属病院総合診療部長教授
	今 井 寛	救命救急・総合集中治療センター教授
	岸和田 昌 之	三重大学医学部附属病院災害対策推進・教育センター長 大学院医学系研究科肝胆膵・移植外科准教授
	成 田 正 明	三重大学大学院医学系研究科発生再生医学分野教授 医学部入試委員長
	伊 藤 圭 一	三重県立志摩病院内科部長
	内 堀 善 有	名張市立病院総合診療科部長
	鈴 木 孝 明	紀南病院組合立紀南病院三重県地域医療研修センター長

2. 事業評価体制

毎年、各大学において自己点検評価をおこない、改善点を事業計画に反映させます。また、連携大学が相互にサイトビジットをおこないピア評価をおこないます。これらの自己評価を取り纏め、事業推進委員会に報告するとともに、外部委員、行政関係者を含む評価委員会の評価を受けるものとします。評価指標として、プログラムの実施状況、履修した学生数、制作した e-learning 教育コンテンツの数、等を用います。

■ 事業評価委員会

	氏 名	役 職
委員長	家 保 英 隆	高知県健康政策部部長医監
副委員長	野 口 晴 子	早稲田大学政治経済学術院教授
委 員	高 村 昭 輝	富山大学医学部医学教育学講座教授
	倉 本 秋	一般社団法人高知医療再生機構理事長

■ 第1回黒潮医療人養成プロジェクト事業評価委員会

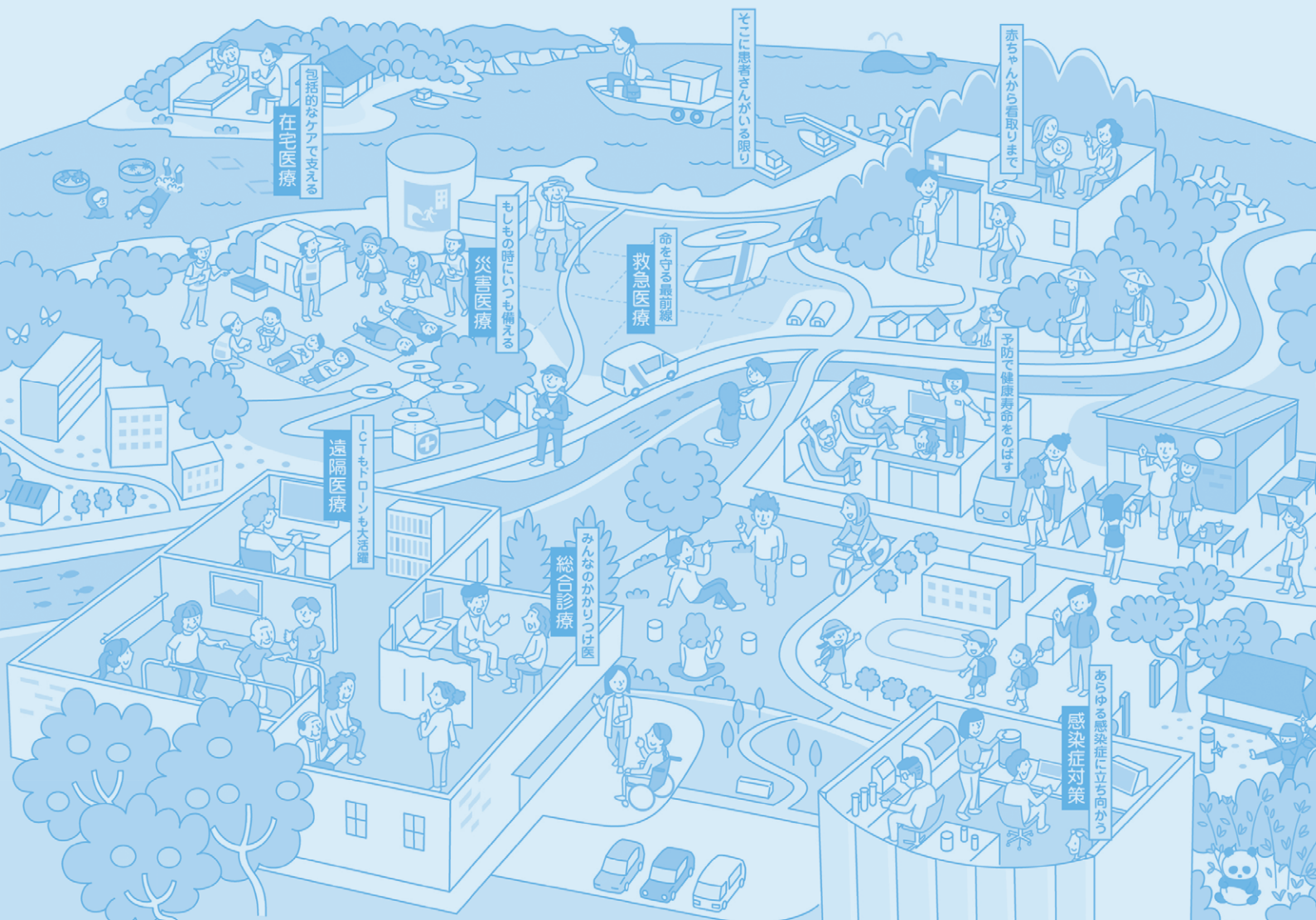
日 時：令和5年3月16日（木）18：00～19：00

開催方法：ウェブ会議（Zoom）

参 加 数：委員4人

III

事業実施状況報告



Ⅲ 事業実施状況報告

1. 教育プログラム

① 高知大学

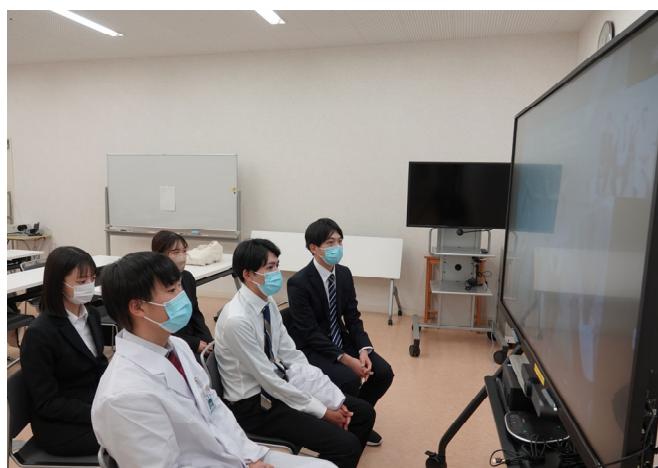
人事および運営体制	
令和4年10月6日	連携校事業推進委員会（準備会）において、実施体制を確認
令和4年12月13日	医学部教授会において、令和5年度より本プロジェクトを担当する特任教授の採用を承認
令和4年12月21日	連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況、来年度の準備状況を確認

教育プログラム進捗状況	
体験実習	
令和4年10月	高知県立幡多けんみん病院 Zoom 打ち合わせ
令和4年10月	高知県立あき総合病院 Zoom 打ち合わせ
令和4年12月、令和5年1月	県立病院訪問、実習について協議
令和5年1月	統合医学Ⅰにおいて、臨床体験実習Ⅰオリエンテーション①、学生希望調査開始
令和5年1月	統合医学Ⅰにおいて、臨床体験実習Ⅰオリエンテーション②、参加学生決定
令和5年2月	臨床体験実習Ⅰオリエンテーション③
令和5年2月	臨床体験実習Ⅰ（前半）実施 幡多けんみん病院3人、あき総合病院5人
令和5年2月	臨床体験実習Ⅰ（後半）実施 幡多けんみん病院7人、あき総合病院5人
アクティブラーニングコース	
令和4年12月	先端医療学推進センター運営委員会において、地域総合診療・臨床疫学研究班、医療DX・データヘルス研究班の新設、および災害救急医療研究班から感染・災害救急医療研究班への名称変更を承認。先端医療学コースとして令和5年度より履修可能となる。
令和5年1月	医学概論において、地域総合診療・臨床疫学研究班 学生に説明
令和5年1月	医学概論において、医療DX・データヘルス研究班 学生に説明
令和5年1月	医学概論において、感染・災害救急医療研究班 学生に説明
令和5年2月	学務委員会が、先端医療学コースの概要について学生に説明
令和5年2月	地域総合診療・臨床疫学研究班 オンライン説明会 15人参加
令和5年2月	医療DX・データヘルス研究班 説明会 2人参加
令和5年2月	感染・災害救急医療研究班 説明会 3人
令和5年2月末	学生希望調査終了
令和5年4月	履修学生確定、各研究班授業開始予定
長期滞在型クリニカルクラークシップ	
令和4年10月	幡多けんみん病院 オンライン打ち合わせ
令和4年10月	あき総合病院 オンライン打ち合わせ
令和4年12月	臨床実習Ⅱ 説明会、学生希望調査開始
令和5年2月	履修学生決定
令和5年4月	実習開始
その他	
令和5年1月	第1回全国フォーラムに出席（教員1人、事務1人）
令和5年3月	三大学合同オンラインシンポジウムに合わせて、教員・学生により高知市内および高知大学医学部附属病院の災害医療関連施設を巡る見学ツアーを実施した。15人の教職員・学生が参加した。

自己評価	
<p>実施体制は徐々に整ってきている。</p> <p>概ね計画通りに実施している。アクティブラーニングコースは定員を上回る希望者が出ており、学生の関心を集めることに成功している。長期滞在型クリニカルクラークシップは、残念ながらコロナ禍の影響で地域医療人材養成拠点病院での実習受け入れが十分でなく計画の12人に対し、5人の履修学生となる見込みである。</p>	



高知大学 体験実習：幡多けんみん病院、あき総合病院（令和5年2月）



高知大学 体験実習：電子黒板を使った拠点病院間での合同セッション（令和5年2月）

Ⅲ. 事業実施状況報告

② 和歌山県立医科大学

人事および運営体制	
令和4年 8月25日	学内キックオフミーティングを開催し、スケジュール及び実施体制を確認
令和4年 9月20日	教員選考会議において、専任の助教1人を同年10月から採用することを承認
令和4年 12月14日	連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況、来年度の準備状況を確認

教育プログラム進捗状況	
体験実習	
令和4年 10月	橋本市民病院、国保すさみ病院、那智勝浦町立温泉病院及び紀北分院に、実習コーディネータの選出を依頼
令和4年 11月	各実習コーディネータと Zoom 打ち合わせ
令和5年 10月	実習実施予定
令和6年 2月	実習実施予定
アクティブラーニングコース	
令和4年 8月	和歌山ろうさい病院・南和歌山医療センターに実習協力依頼（災害救急コース）
令和4年 10月	橋本市民病院、国保すさみ病院、那智勝浦町立温泉病院及び紀北分院に、実習コーディネータの選出を依頼
令和4年 11月	各実習コーディネータと Zoom 打ち合わせ
令和5年 3月	e-learning コンテンツ 総合診療の総論 完成、災害復興期に問題となる感染症とその対策（仮題）作成中
令和5年 5月	学生に実習内容説明（医学概論Ⅰ）、希望調査実施、履修学生確定（予定）
令和5年 6月	災害救急コース講義
令和5年 7月	実習実施（地域総合診療コース）
令和5年 7月	実習実施（災害救急コース）
令和5年 7月	サイトビジット受け入れ
長期滞在型クリニカルクラークシップ	
令和4年 10月	橋本市民病院、国保すさみ病院、那智勝浦町立温泉病院及び紀北分院に、実習コーディネータの選出を依頼
令和4年 10月	各医療機関に受入希望調査を実施
令和4年 11月	各実習コーディネータと Zoom 打ち合わせ
令和4年 11月	学生希望調査を実施
令和5年 2月	履修学生確定
令和5年 3月	学生・拠点病院アンケート実施、実習コーディネータ打ち合わせ、相互受け入れ実施可否確認
令和5年 4月	実習開始（橋本市民病院6人、国保すさみ病院4人、那智勝浦町立温泉病院8人、紀北分院8人）
そ の 他	
令和5年 1月	第1回全国フォーラムに出席（教員2人）
令和5年 3月	三大学合同オンラインシンポジウムに出席（教員2人、学生1人、オンライン参加3人）

自己評価
<p>実施体制は徐々に整ってきており、概ね計画通りに実施している。長期滞在型クリニカルクラークシップについては、当初12人の学生の参加を予定していたが、地域医療人材養成拠点病院等より当初の予定以上の協力が得られ、26人の学生がプログラムに参加する予定となっている。また実習コーディネータを選定するとともに、連携校事業推進委員会委員学生ともプログラムの策定にあたっている。アクティブラーニングコース（災害救急コース）では2病院から協力が得られており、現在災害に関する実習の詳細について検討を進めているところである。体験実習・アクティブラーニング（地域総合診療）については、新年度スタートとともに準備を進める予定である。また、e-learning コンテンツ2コンテンツを作成した。</p>



総合診療アクティブラーニングコース三大学打ち合わせ（令和4年11月30日）



和歌山県立医科大学地域医療人材養成拠点病院環境整備（令和5年1月）



e-learning コンテンツ制作（令和5年3月）

Ⅲ. 事業実施状況報告

3 三重大学

人事および運営体制	
令和4年 8月10日	本事業検討ワーキンググループ（連携校事業推進委員会）において、実施体制等を確認
令和4年 10月 4日	連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況を確認
令和4年 11月 9日	医学部教授会において、12月1日より本プロジェクトを担当する助教の採用を承認
令和4年 12月12日	連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況を確認
令和5年 1月23日	連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況を確認。令和4年度三大学合同オンラインシンポジウムへの現地参加教員及び学生の参加調整を確認。
教育プログラム進捗状況	
体験実習	
令和4年 8月	「医療と社会」地域基盤型保健医療実習（1年、市町担当者や住民様等にインタビュー）、（2年、地域貢献活動）
令和4年 10月	地域基盤型保健医療実習終了後の振り返り（1年）
令和5年 2月	地域基盤型保健医療実習報告会を実施（1、2年）。優秀演題については三大学合同オンラインシンポジウムで学生に発表依頼。また現在地域診療についての e-learning コンテンツ作成中。
アクティブラーニングコース	
令和4年 8月10日	（連携校事業推進委員会）10/1 附属病院大規模防災訓練にかかる、参加学生及び訓練内容・事前学習準備を確認。3月開催日本災害医学会総会・学術集会における学生発表の検討を確認。
令和4年 8月26日	附属病院大規模防災訓練打ち合わせ
令和4年 9月	チュートリアル教育感染症ユニットでの講義及び感染症・公衆衛生に関する e-learning 教材での自己学習教材を活用した教育を実施
令和4年 9月20日	災害救急コースとして、中部国際空港検疫施設実習に第3学年15人が参加
令和4年 10月	研究室研修開始（第3学年）
令和4年 10月 1日	災害救急コースとして、附属病院大規模防災訓練に学生（第3学年1人、第5学年121人）が参加。津波被害時の病院搬送机上訓練、担架搬送訓練、エアーストレッチャー使用の階段引き上げ訓練、AR 機器を活用した浸水体験を行った。
令和4年 10月 4日	（連携校事業推進委員会）3月開催日本災害医学会総会・学術集会における学生発表案を確認。
令和4年 10月21日、11月11日	事業の一環とする、津波避難訓練打ち合わせ
令和4年 11月22日	本事業の一環として、三重大学津波避難訓練、第2救護所開設、多数傷病者受入訓練に学生（医学科5年5人、1年1人、看護学科2年8人）が参加
令和4年 12月12日	（連携校事業推進委員会）令和5年度三大学合同オンラインシンポジウムにおいて、地域総合診療コースにおける各大学学生の活動報告を行うことを検討中であることを確認。救命救急・総合集中治療センター初期診療室（ER）に関する映像コンテンツ作成案を確認。災害医療又は感染症に関する e-learning コンテンツを毎年度3つ作成することを確認。3月開催日本災害医学会総会・学術集会における学生発表案を確認。
令和5年 1月23日	（連携校事業推進委員会）救急救命領域へのVR参加型実習と映像コンテンツ作成を確認。3月開催日本災害医学会総会・学術集会における教員及び学生発表を確認
令和5年 2月16日	市民公開講座開催に対する記者会見にて開催内容の発表（第3学年1人）
令和5年 3月11日	研究室研修での成果（医学部生に対する南海トラフ巨大地震による津波想定への搬送訓練—拡張現実（AR）浸水疑似アプリの活用と担架およびエアーストレッチャーの使用）を第28回日本災害医療学会（岩手）で学生（第3学年1人）が発表予定
令和5年 3月25日	地域住民対象の市民公開講座（テーマ：南海トラフ大地震の津波での備え）にて講演（演題名：一つでも多くの命を助けるための一次救命処置・救急搬送）、一次救命ブース（第4学年2人、第2学年4人、第1学年4人）、浸水体験ブースでは三重県知事・津市長への説明・対談予定

長期滞在型クリニカルクラークシップ

令和4年 8月10日	(連携校事業推進委員会) 令和5年度地域医療人材養成拠点病院の受入準備を確認
令和4年 12月	第1回エレクトィブ説明会にて5年生に説明
令和5年 1月末	学生希望調査終了
令和5年 2月	エレクトィブで長期滞在型クリニカルクラークシップへ行く学生決定 (LICの空いている枠への他大学学生の受け入れ、およびe-learning教材の撮影について総合診療科へ依頼済み)
令和5年 3月	第2回エレクトィブ説明会で5年生に説明

そ の 他

令和4年 8月10日	(連携校事業推進委員会) 事業の一環とする、市民公開講座開催の検討を確認
令和4年 10月 4日	(連携校事業推進委員会) 事業の一環とする、市民公開講座の開催について確認
令和5年 1月23日	(連携校事業推進委員会) 事業の一環とする、南海トラフ大地震・津波に対する医療をテーマとした市民公開講座・イベント開催について、内容等を確認
令和5年 1月	第1回全国フォーラムに出席 (教員1人)
令和5年 3月	三大学合同オンラインシンポジウムに合わせて、教員及び学生交流に参加

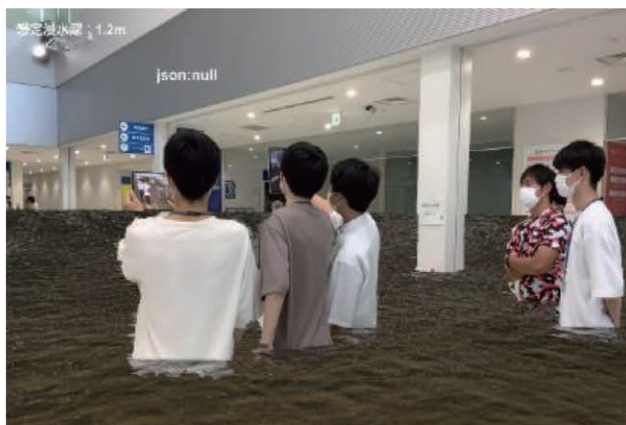
自己評価

本事業検討ワーキンググループにおける活発な議論とともに、体験実習、アクティブラーニングコースは計画に沿って着実に進捗している。令和5年度の長期滞在型クリニカルクラークシップに関しては、地域医療人材養成拠点病院である紀南病院に3人、県立志摩病院に4人の学生が4週間臨床実習を行うことが確定している。臨床実習の選択期間の原則すべての期間(約4か月間)をStudent Doctorとして地域医療人材養成拠点病院で研修する学生の確保に向けた活動を推進している。

Ⅲ. 事業実施状況報告



三重大学 中部国際空港検疫施設実習（令和4年9月20日）



三重大学医学部附属病院 大規模防災訓練（令和4年10月1日）



三重大学 救急救命領域へのVR参加型実習（令和5年1月23日）

2. 大学間連携事業

① e-learning

(1) e-learning について

黒潮医療人養成プロジェクトでは、体験実習、アクティブラーニングコース、長期滞在型クリニカルクラークシップの学習の補助として e-learning 学習コンテンツを制作していきます。

三大学の相互の強みを生かし、救急（災害を含む）、感染症、在宅医療、遠隔医療など地域現場のニーズに対応したオンラインでの教育コンテンツを協働、分担して制作していきます。毎年、30 分程度の教育コンテンツを制作し、令和 4 年度においては 6 コンテンツ、令和 5 年度以降は毎年 10 コンテンツ以上を制作することを目標としています。

(2) 公開範囲

制作したコンテンツは、自大学の LMS（三大学とも Moodle を使用）で履修学生に提供します。高知大学でコンテンツの管理をおこない、他大学での利用を許諾しているコンテンツはウェブサイトでも公開します。ウェブサイト上のコンテンツは、ID、パスワードを付与された、連携校の履修学生、関係者（研修医、一般学生、指導医、等）も視聴することが可能となります。

	履修学生 (自大学)	履修学生 (連携校)	学生 (他の拠点)	関係者 研修医、一般学生、 指導医、等
Moodle	○			
黒潮医療人養成プロジェクト ウェブサイト	○	○		○
筑波大学 地域医療教育 e-learning システム*	○	設定により	設定により	設定により

※ 筑波大学地域医療教育 e-learning システム

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業の拠点間連携として筑波大学が準備しているものです。各大学の履修学生だけでなく、連携校の履修学生や他の拠点の学生、関係者に公開することも可能です。令和 5 年度の運用開始に向けて活用を検討していきます。

(3) 制作済みコンテンツ（令和 5 年 3 月現在）

No.	カテゴリー	コンテンツ名	対象学年	作成大学
1	総合診療	総合診療と臨床研究	1・2 年	高知大学
2	総合診療	総合診療ことはじめ	1～4 年	和歌山県立医科大学
3	救 急	避難所での支援活動の中での感染防衛の注意点 ～和歌山県 ver.～	全学年	和歌山県立医科大学
4	総合診療	地域アセスメントについて	1・2 年	三重大学
5	総合診療	文献検索について	全学年	三重大学

Ⅲ. 事業実施状況報告

(4) コンテンツ制作計画

1) 体験実習

	令和 4 年度	令和 5 年度
高知大学	・地域医療に関する講演の動画	・地域医療に関する講演の動画
和歌山県立医科大学	実施しない	・地域医療に関する講演の動画 (アクティブラーニングと関連)
三重大学	未定	・地域診断

2) アクティブラーニングコース（地域総合診療、医療 DX）

	令和 4 年度	令和 5 年度
高知大学	・地域医療と臨床研究	・ICT を用いた多職種連携 ・地域のプラクティスに基づいた臨床研究
和歌山県立医科大学	・総合診療の総論	
三重大学	・文献検索	・多職種連携に必要なコンピテンシー

3) アクティブラーニングコース（災害救急・感染症）

	令和 4 年度	令和 5 年度
高知大学	<ul style="list-style-type: none"> 高知県の視点から見た南海トラフ地震 感染症と避難所運営 <ul style="list-style-type: none"> ①呼吸器感染症（新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ感染症） ②津波肺 避難所のできる感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> ①避難所での口腔ケア ②災害時の歯科保健医療 	<ul style="list-style-type: none"> 前年の積み残し 避難所での感染症陽炎の予防と対策 高知県の災害特性と医療支援について 南海トラフ地震での大学病院の役割 災害時の避難所アセスメントの方法
和歌山県立医科大学		
三重大学		

4) 長期滞在型クリニカルクラークシップ

	令和 4 年度	令和 5 年度
高知大学	実施しない	・介護保険の基礎・せん妄への対応
和歌山県立医科大学		<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携 総合診療と在宅医療 地域における予防医学
三重大学		未定

2 合同シンポジウム

第1回 合同シンポジウム

概要と目的	三大学の教職員、学生、地域医療人材養成拠点病院関係者、行政が本プロジェクトの意義を確認、相互に交流するとともに、広く地域に対し情報発信する		
日 時	令和5年3月1日（水）13:00～15:30		
場 所	高知大学医学部アメニティマルチスペース（Zoomによるハイブリッド開催）		
主 催	高知大学医学部		
後 援	高知県、一般社団法人高知県医師会、一般社団法人高知医療再生機構		
参 加 者	136人（現地40人、オンライン96人）		
次 第			
13:00	開会挨拶	高知大学医学部長	降幡 睦夫
13:05	祝 辞	高知県知事	濱田 省司 様 （代読；医療政策課 課長補佐 岡本 幸 様）
13:10	特別講演	『医師である私たちのできること—東日本大震災の経験を通して—』 座長：高知大学医学部 災害・救急医療学講座 教授 西山 謹吾 講師：東北大学病院 総合地域医療教育支援部 助教 菅野 武 先生	
14:30	取り組み事例報告（高知大学医学部先端医療学コース災害救急医療研究班）	『津波避難タワー滞在実習 IN 中土佐町』 田村 侑子（4年） 『医学部生に対する防災・減災の取り組みへの理解に向けて』 井上 希（5年） 『災害時における安全な患者搬送実施にむけたオンライン教育』 村山真理子（5年）	
14:50	パネルディスカッション『黒潮医療人養成プロジェクトの推進に向けて』	司会：高知大学医学部 医学科長／総合診療部 教授 瀬尾 宏美 パネリスト： 高知大学医学部 家庭医療学講座 教授 阿波谷敏英 和歌山県立医科大学 地域医療支援センター 副センター長 蒸野 寿紀 三重大学医学部附属病院 総合診療部 教授 山本 憲彦 高知大学医学部医学科 5年 井上 希 高知大学医学部医学科 4年 上嶋 純平 助言者：東北大学病院 総合地域医療教育支援部 助教 菅野 武 先生	
15:25	次回開催地挨拶	三重大学医学部長	堀 浩樹
	閉会挨拶	高知大学医学部 医学科長／総合診療部 教授	瀬尾 宏美
15:30	閉 会		

Ⅲ. 事業実施状況報告

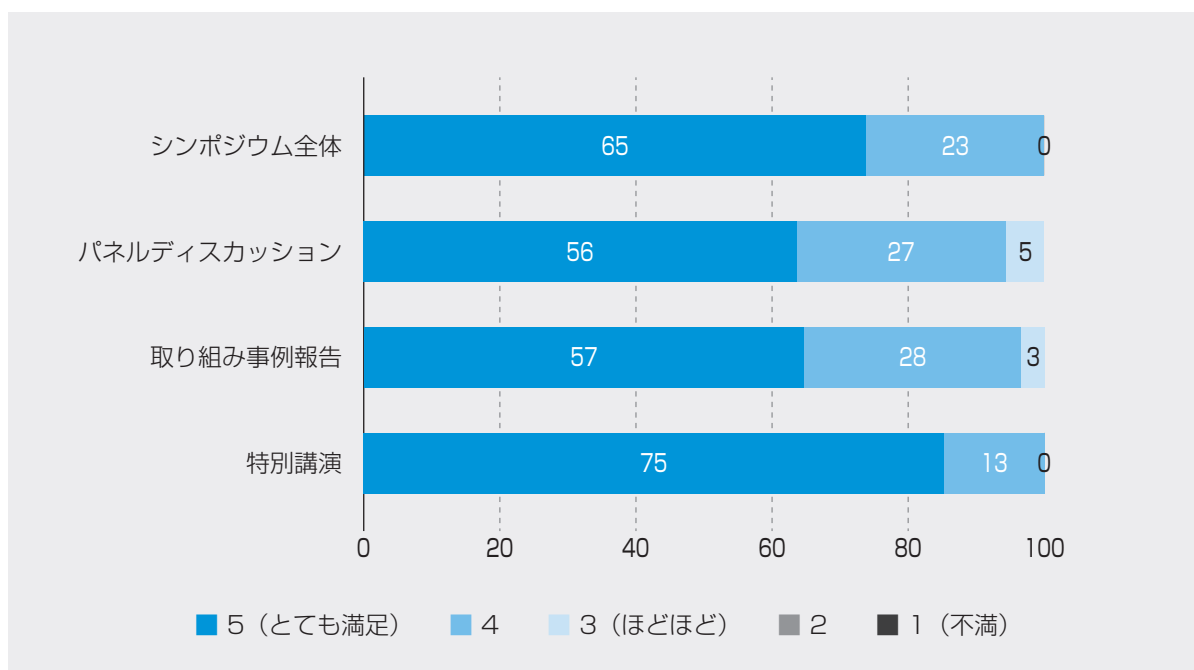
参考資料

参加者内訳

	計	高知	和歌山	三重	その他	その他内訳
医 学 生	47(20)	40(15)	1(1)	5(4)	1(0)	島根
大学関係者	48(15)	18(9)	5(2)	11(4)	14(0)	名古屋2、筑波2、岡山2、新潟、自治、富山、岐阜、島根、長崎、メリーランド
高 校 生	14(0)	1(0)	12(0)	1(0)		
地域医療機関	17(0)	9(0)	5(0)	3(0)		
県 庁 職 員	7(4)	5(4)	1(0)	1(0)		
そ の 他	3(1)				3(1)	特別講師、厚労省医政局、不明
計	136(40)					

参加者アンケート

回答者 88 人（医学生 46、大学関係者 22、高校生 10、地域医療機関 7、県庁職員 3）



自由意見

医 学 生

- とても勉強になりました。
- これから医師として働くにあたって、様々なことを考えなければならないと自覚しました。
- とても興味深く、将来の理想の医師像について考えさせられました。
- 今後起こる南海トラフ巨大地震時の医療について考えるいい機会になりました。
- 菅野先生のご講演や様々なご意見を伺うことができ、将来の自分の医師になるための学びとなりました。
- 他大学の意見や大学間の違い、共通点について肌で感じる貴重な機会だったと思います。
- 各大学の学生の取り組みを知りたい。
- 高知大では家庭医療道場というものがあり、1年生の応募が特に多いと聞いています。全員がということは難しいと思いますが、入学したての熱いうちに地域への興味を持ってもらえる取り組みがあるといいかなと思いました。

- 私は三重県の防災について考えてきましたが、今回の会を通して、高知県や和歌山県も同じ問題に対処しようとしていると気付きました。
- 参加者がディスカッションできる機会があればより深く学べそうだと思います。
- 学生のどなたかの質問にもありましたが、私も地域医療実習でどのように踏み込んでいけばいいのか悩んでいます。私は1年生で、地域実習に行ったのですが、もっとお時間をいただきたいかったです。
- 大学で、津波に対する避難訓練に参加させていただいたことがあるのですが、あのような機会をもっといただきたいです。今回、高知大学の学生の方々がなされたように、実際に地域に赴いて、津波避難について考察したいです。このようなことは個人でも可能かもしれませんが、大学や地域全体で取り組むべき問題だと思います。医学部や他学部の先生方、地域の方々にご協力いただき、授業で取り組むことができれば嬉しいです。

大学教職員

- 午前中に現地の施設見学をさせていただきとても良かった。
- 開催に向けての関係者の皆様方のあつい熱意と御努力に感謝申し上げます。
- 音量の差が大きく頻回に調整を要しました。シンポジウムの時にシンポジストが映っていた方が良かったかと思いました。

高校生

- 災害医療を円滑に進めるために日頃から地域医療のニーズに注意を向けておくことが必要であると感じました。
- 患者を搬送するにも簡易担架の使い方を知っておく必要があるので、備えの重要性を改めて認識しました。
- 私は医学部への進学を目標にしているのですが、取組事例やパネルディスカッションで、実際に医学部の学生さんが行っていることを知り、医学部で学びたいという気持ちがより一層強まりました。
- 今日のお話を聞くまでは、地域で働くことに対して少し後ろ向きだったのですが、学生の方がいきいきとお話されている様子を見て、地域に対して興味を持つことができました。

地域医療機関

- 他のシンポジウムに参加しましたが、どのような人材を育てたいのかがよくわからない内容のものでしたが、今回は良かったです。
- 菅野先生のご講演は、言葉に力があり、とても考えさせられました。医学生がもっと聴いてくれたらよかったな、と思いました。

県庁職員

- 実際の現場での臨場感のある説明や、若い世代の医学生の感想や捉え方、色々な発表など、とても有意義でした。

Ⅲ. 事業実施状況報告

第1回 合同シンポジウム 当日の様子





高 知 新 聞

黒潮医療人養成プロジェクトの展望を議論する3大学の
の教授ら（南国市岡豊町小蓮の高知大医学部）



医療人材 協働して養成

高知大など3県大学連携 初のシンポ

南海トラフ地震と過疎高齢化など、共通の課題がある高知など3県の大学が協働して医療人材を養成するプロジェクトが始まった。1日に高知大学医学部（南国市）で初のシンポジウムが開かれ、東日本大震災を経験した医師の講演などで今後の展望を探った。

高知大学と和歌山県立医科大学、三重大学で、昨年8月に「黒潮医療人養成プロジェクト」を設立。各県の地域拠点病院での相互実習や、オンライン学習コンテツツの共同開発などを進めて、地域ニーズを把握した医療人材を養成する。シンポにはオンラインを含め約150人が参加。高知県災害医療アドバイザーで東北大学病院助教の菅野武さん（43）が、震災時に勤務していた宮城県南三陸町の公立志津川病院での体験を講演した。

揺れから40分で津波が押し寄せ、4階まで波が迫る中、患者を急いで5階に搬送。死亡者の身元が分かるようにと、医療従事者が自分と患者の体に油性ペンで名前を書き始めたといい、「発生直後の対策は『生き延びる』の一点。まず自分の命を守る行動をしてほしい」と強調。

さらに、「どんな人が社会的弱者で、どんなニーズがあつてどの機関とつなぐといいのか。普段の地域医療でつぶさに見ているかどうか災害時の支援につながる」と訴えた。この後、3大学の教授らがパネルディスカッションし、学生らが平素から地域と積極的に関わる仕組みをつくることを確認した。

（山崎彩加）

2023年（令和5年）3月3日

第1回 合同シンポジウム チラシ

地域から、日本の医療の未来を描く

黒潮医療人養成プロジェクト
第1回 合同シンポジウム

2023年3月1日(水) 13:00-15:30

参加費
無料

オンライン参加

お申込はこちらから

本シンポジウムはハイブリッド形式で開催しますが、COVID-19の感染拡大防止のため会場は関係者のみ、参加者はどなたもオンラインでの受付となります。
参加ご希望の方は、右の事前登録用フォームからお申込みください。

プロジェクト
WEB サイト

kuroshio-pjt.com



プログラム

■特別講演「医師である私たちのできること - 東日本大震災の経験を通して -」

講師：菅野 武 氏（東北大学病院 総合地域医療教育支援部 助教）

座長：高知大学医学部 災害・救急医療学講座 教授 西山謙吾

■取り組み事例報告 高知大学医学部 先端医療学コース 災害救急医療研究班 学生の発表

■パネルディスカッション 司会：高知大学医学部 医学科長／総合診療部 教授 瀬尾宏美

パネリスト：高知大学医学部 家庭医療学講座 教授 阿波谷敏英
和歌山県立医科大学 地域医療支援センター 副センター長 燕野寿紀
三重大学医学部附属病院 総合診療部 教授 山本憲彦
高知大学医学部 学生

講師プロフィール

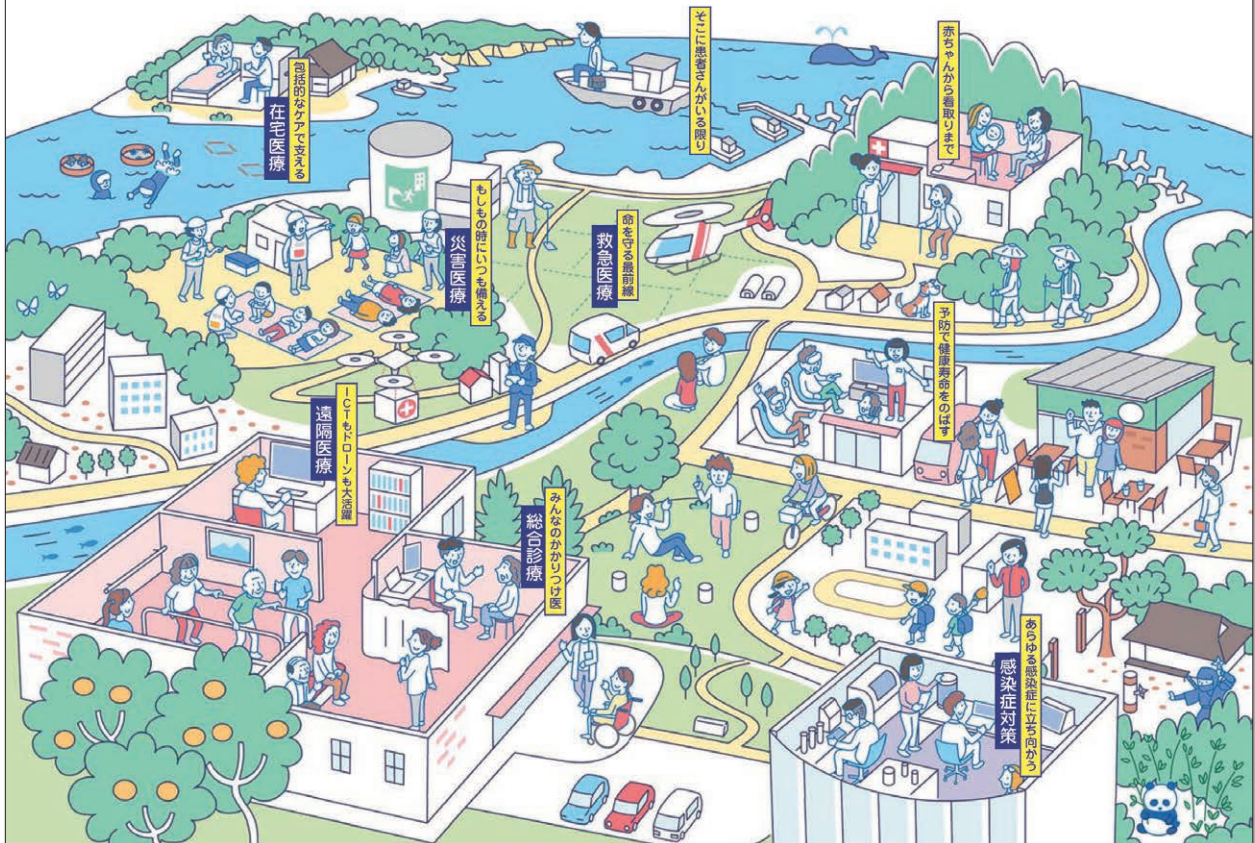


菅野 武 氏

東北大学病院
総合地域医療教育支援部 助教
(消化器内科兼務)

宮城県出身。2005 年自治医科大学卒業。南三陸町の公立志津川病院で勤務していた 2011 年 3 月 11 日、東日本大震災で被災。その時の体験が世界に報道され、TIME 誌「世界で最も影響力のある 100 人」に選出される。震災後、東北大学大学院で博士号取得、2017 年よりカナダのマクマスタ大学に留学。2019 年 10 月より現職。

主催：高知大学医学部 後援：高知県、（社）高知県医師会、（社）高知医療再生機構



Ⅲ. 事業実施状況報告

③ 学生相互派遣・交流

体験学習	
大学により実習の実施時期、内容が異なり学生相互派遣・交流は難しい。	
アクティブラーニングコース	
地域総合診療 医療 DX	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度からの履修学生登録にあわせて交流事業を検討している。 令和5年5月13日、14日の第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（名古屋市）の学生セッションにおいてポスターツアーを企画している。 【目的】研究デザイン、研究リテラシーについて学ぶ、学生の交流。 【方法】事前にオンラインでミーティングをおこなう。学生セッションのポスターを3演題指定して、担当学生を割り当てる。学生が指定された演題の抄録を吟味し意見交換をおこなう。当日、学会会場でポスターを見て意見交換、教員による解説をおこなう。 令和5年度、合同シンポジウムでの活動報告、研究発表を検討する。
災害救急	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年3月1日、合同シンポジウムで高知大学の先端医療学コース災害救急医療研究班の学生3人が活動報告をおこなった。和歌山県立医科大学の学生1人、三重大学の学生4人が参加し、意見交換をおこなった。 令和5年8月、高知大学が実施する災害現場ツアー・津波避難タワー宿泊実習に和歌山県立医科大学、三重大学の学生も参加する。高知大学10人、他大学10人の学生を募る予定。 令和5年度末に合同セミナー、発表会（ハイブリッド）を企画する。
長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）	
<ul style="list-style-type: none"> 各大学が令和5年4月～7月に地域医療人材養成拠点病院で実施する長期滞在型クリニカルクラークシップに学生の相互派遣を検討している。現在、各大学で他大学への派遣を希望する学生を募っている。 令和6年度は、よりスムーズに相互派遣ができるよう、学生の募集時期、地域医療人材養成拠点病院の受入れ体制など改善していく予定。 	

④ サイトビジット

体験学習	
各大学とも受入れは可能。今後、実現に向けて検討をおこなう。	
アクティブラーニングコース	
地域総合診療 医療 DX	<ul style="list-style-type: none"> 夏期休暇中（8月）に和歌山県立医科大学が地域医療人材養成拠点病院等で開催するアクティブラーニングコース（5日間）に合わせて、高知大学2人、三重大学2人の教員が1泊2日程度で和歌山に訪問することとする。
災害救急	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年3月1日、合同シンポジウムにあわせて、高知市内の防災施設見学ツアーを実施し、和歌山県立医科大学3人（教職員2人、学生1人）、三重大学8人（教職員4人）が参加した（別紙）。 令和5年10月、大規模津波災害医療対策訓練（高知）を見学しに、和歌山県立医科大学、三重大学からそれぞれ10人以内の学生・教職員が赴く予定。 令和5年10月 三重大学医学部附属病院防災訓練（三重）に高知大学、和歌山県立医科大学からそれぞれ10人以内の学生・教職員が赴く予定。
長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）	
令和5年4月～7月、地域医療人材養成拠点病院で実施する長期滞在型クリニカルクラークシップに、他大学の教員の見学を受入れ可能。今後、実現にむけて調整する。	

防災施設見学ツアー

概要と目的

三大学の教員、学生が、高知県中央部の防災施設見学や地理視察をおこない意見交換することで、各県の防災医療について学びを深める。

日 時

令和5年3月1日（水）9:00～11:50

主 催

高知大学医学部

協 力

高知県保健政策課災害医療対策室

参 加 者

15人（シンポジウム特別講師1人、高知大学教職員3人、和歌山県立医科大学教員2人、和歌山県立医科大学学生1人、三重大学教職員4人、三重大学医学部学生4人）

タイムスケジュール

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 9:00 | 高知駅北口集合 |
| 9:15～9:50 | 総合あんしんセンター（高知市丸ノ内一丁目7-45） |
| 10:05～10:40 | 弥右衛門公園（大規模防災公園・高知市高そね12-1） |
| 10:55～11:20 | 五台山展望台（高知市五台山4200-6） |
| 11:40 | 高知大学医学部到着 |

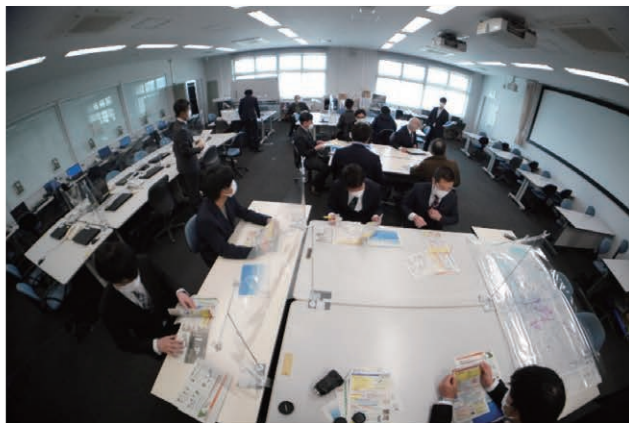
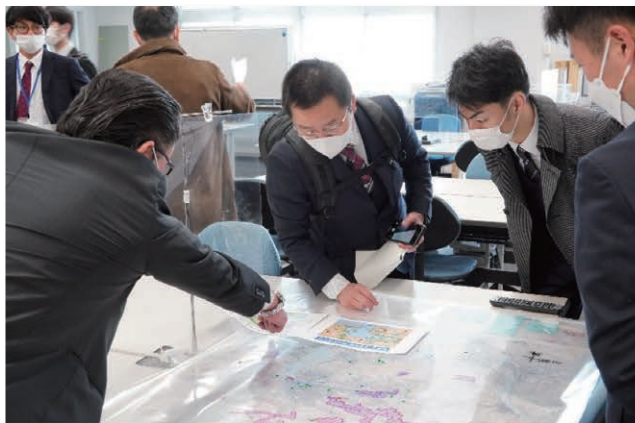


出典：地理院地図 Vector
地理院地図 Vector を加工して作成

Ⅲ. 事業実施状況報告

防災施設見学ツアー 当日の様子

■ 総合あんしんセンター



■ 弥右衛門公園



■ 五台山展望台



3. 学生の地域志向性に関する調査・研究

本事業の評価指標として、学生の地域志向性の向上、地域志向性の高い新入生の入学の増加を挙げており、事業期間中、継続的にアンケート調査を行う計画です。

三大学の共同研究として、高知大学医学部倫理委員会の承認（承認番号 2022-93）を得て実施しています。研究計画書は次頁以降を参照してください。

● 地域志向性に関するアンケート調査結果

■ 回答数／対象者数（令和5年3月現在）

学年	高知大学		和歌山県立医科大学		三重大学	
1 年生	74 / 112	66.1%	93 / 105	88.6%	61 / 125	48.8%
3 年生	44 / 117	37.6%	83 / 89	93.3%	61 / 129	47.3%
5 年生	77 / 119	64.7%	92 / 102	90.2%	70 / 130	53.8%
6 年生	60 / 126	47.6%	9 / 111	8.1%	18 / 126	14.3%
全体	255 / 474	53.8%	277 / 407	68.1%	210 / 510	41.2%

■ 地域志向性スコア

学年	高知大学		和歌山県立医科大学		三重大学	
1 年生	49.06 ± 7.55	n=70	47.74 ± 7.66	n=91	49.50 ± 7.41	n=56
3 年生	49.91 ± 5.83	n=43	45.02 ± 7.43	n=83	48.37 ± 6.72	n=59
5 年生	46.66 ± 5.84	n=74	44.64 ± 6.22	n=90	48.03 ± 7.25	n=65
6 年生	48.45 ± 5.53	n=60	43.89 ± 4.20	n=9	48.94 ± 6.28	n=17
全体	48.34 ± 6.38	n=247	45.77 ± 7.16	n=273	48.63 ± 7.04	n=197

出身地	高知大学		和歌山県立医科大学		三重大学	
大都市	45.74 ± 6.95	n=65	45.65 ± 7.53	n=78	45.02 ± 8.19	n=44
県庁所在地	48.69 ± 5.43	n=106	45.59 ± 7.22	n=103	49.79 ± 5.97	n=70
地方都市	50.07 ± 6.63	n=72	46.11 ± 6.77	n=87	49.13 ± 6.75	n=75
山村・離島	50.25 ± 2.87	n=4	45.00 ± 8.40	n=5	52.86 ± 3.58	n=7
全体	48.34 ± 6.38	n=247	45.77 ± 7.16	n=273	48.63 ± 7.04	n=197

大都市：大都市（人口 100 万人以上）、県庁所在地：都道府県の中心地・県庁所在地（人口数十万人程度）、地方都市：地方都市（人口数万人程度）、山村・離島：山村・離島など（人口 1 万人以下）

● 研究計画書

(1) 背景と目的

医学の進歩に伴い、医療は高度化、細分化が進み、医師の大病院、都市部への偏在が社会問題となっている。これに対し、全国の医学部では、入学定員を増やし、地域枠として卒業後の医師不足地域での勤務を義務付け、医師の地域偏在の解消に努めている。しかし、地域枠卒業医師が地域ニーズの高い総合的な領域（総合診療、救急、感染症等）に進むことを期待されているにもかかわらず、専門分化された診療科を志向することも少なくない。学部教育として学生に地域ニーズへの深い理解が求められるようになり、令和4年度、文部科学省の補助事業「ポストコロナ時代における医療人材養成拠点形成事業」が公募された。

高知大学、和歌山県立医科大学、三重大学では「黒潮医療人養成プロジェクト」として応募し採択された。三大学の立地する高知県、和歌山県、三重県では、過疎高齢化が進み、中山間地が多く、長い海岸線に沿って集落が点在するなど社会的な状況が類似しており、医療の安定的な確保に共通課題がある。また、南海トラフ巨大地震が発生した際には、甚大な津波被害が予想されている。本事業では、三大学で連携して地域指向型医学教育を推進し、地域ニーズを深く理解し、課題解決のためにリーダーシップを発揮する医療人を養成することを目標にしている。

「黒潮医療人養成プロジェクト」では、各県に地域医療人材養成拠点病院を定め、同院での低学年からの体験実習、高学年での長期滞在型のクリニカルクラークシップ（Longitudinal Integrated Clinical Clerkship）、複数学年にわたるアクティブラーニングコース、三大学合同シンポジウムを計画している。こうした地域指向型教育の効果を測るために、継続的に学生の地域指向性を調査することとした。

(2) 研究方法等

(ア) 研究対象者

令和4年度から令和10年度に高知大学・三重大学・和歌山県立医科大学に在籍している医学科の学生を対象とする。毎年、1年生（入学時）、3年生、5年生、6年生（卒業時）を対象にアンケート調査を実施する。アンケート実施にあたり、適切な同意を得る。

(イ) 研究期間

令和4年度（倫理委員会承認日）～令和11年3月31日

(ウ) データ収集方法

三大学それぞれに自大学の学生に対し、オンラインで実名のアンケート調査を実施する。アンケート調査項目は、出身地の人口規模、地域指向性尺度15項目とする。アンケート調査項目以外に、大学が把握し所属する教員に開示している学生基本情報（出身地、入試種別、学年、履修科目等）も利用する。

地域指向性尺度は、川本らが開発した地域志向性尺度（文科省科研15K04236）を使用する。

(エ) 分析方法

研究責任者または研究分担者は、自大学の各学生のアンケート回答データから、個人情報等を削除し番号を付与し匿名化する。管理番号と学生の個人情報の対応表を別途作成し、アンケート回答データを扱うコンピュータと接続していない外部記録媒体に分けて保管する。管理番号と個人情報の対応表を保存した外部記録媒体は施錠した保管庫で厳重に管理する。研究分担者は匿名化したアンケート回答データのみを研究責任者に送付する。

地域指向型の教育プログラムの履修により、学生の地域指向性が変化したかを調査し、プロジェクトの有効性を検証する。また、入試制度（地域枠）、出身地の違いにより効果に差異が生じるかも検証する。

(3) 倫理的配慮

本研究は、高知大学医学部倫理委員会の承認を受けることとする。データは厳格に管理することとし、本研究の目的のために限り使用し、第三者に提供及び開示を行わない。研究終了後、不要となるデータ等は速やかに廃棄することとする。

(4) 研究組織

高知大学医学部家庭医療学講座	阿波谷 敏 英（研究代表者）
和歌山県立医科大学地域医療支援センター	蒸 野 寿 紀
三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野	西 村 有 平

4. ウェブサイト

(1) 目的

黒潮医療人養成プロジェクトの三大学だけでなく、他大学、地域医療機関の従事者、行政、地域の人々にもプロジェクトを知っていただき、つながりを深めることを目的として開設しました。

Instagramとも連動し、プロジェクトでの活動の写真なども発信していきます。プロジェクトで実施する体験実習や長期滞在型クリニカルクラークシップなどの実習の様子を発信することにより、関心を持って履修する医学生の増加、他大学との交流事業への参加を促す効果を期待しています。

さらに、高校生には、大学での学びの様子を知り、地域医療に貢献する医師を目指す意欲を高め、シンポジウムの参加にもつながることを期待しています。その結果、地域志向性の高い学生が多く入学することを期待しています。

(2) 開設日

令和5年2月2日（木）

(3) ウェブサイト URL

<https://kuroshio-pjt.com/>



(4) Instagram

ID kuroshio_pj

(5) コンテンツ

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| • はじめに | 黒潮医療人養成プロジェクトの概要、事業責任者のあいさつ等 |
| • プログラム説明 | 三大学の各プログラムの説明 |
| • e-learning | 履修学生用のオンライン学習動画コンテンツ |
| • シンポジウム | 合同シンポジウムに関する告知や参加申込 |
| • お知らせ・トピックス | 更新のご案内、イベント開催の告知など |
| • 関係者ページ | 事業推進委員会／事業評価委員会の議事録、事業報告書のアーカイブ |
| • 関係機関リンク | 地域医療人材養成拠点病院のウェブサイトのリンク |



お知らせ・トピックス

> 一覧を見る

すべて / お知らせ / イベント

- 2023年03月08日 **e-ラーニング更新!**
- 2023年03月03日 **合同シンポジウムが終了しました**
- 2023年02月02日 **ホームページを開設しました**

Instagram



このプログラムの
特長と学び

e-ラーニング
動画コンテンツはこちら

高知大学の
教育プログラム ...

和歌山県立医科大学の
教育プログラム ...

三重大学の
教育プログラム ...

三大学合同シンポジウム

関係者ページ

関係機関リンク

- 高知県立幡多けんみん病院
- 高知県立あき総合病院
- 橋本市民病院
- 国保すさみ病院
- 郡智勝浦町立温泉病院
- 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院
- 紀南病院組合立紀南病院
- 三重県立志摩病院
- 名張市立病院

文部科学省 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

黒潮医療人養成プロジェクト

【事務局】 高知大学医学部病院事務部総務企画課 地域医療支援室
電話：088-888-2744 メール：kuroshiodmp@kochi-u.ac.jp

黒潮医療人養成プロジェクトとは

- 代表あいさつ
- プロジェクト参加施設
- プログラム説明
- 高知大学のプログラム
- 和歌山県立医科大学のプログラム
- 三重大学のプログラム

- e-ラーニング
- シンポジウム
- 関係者ページ
- お問合せ
- サイトポリシー

高知大学 医学部
Website

和歌山県立医科大学
Website

三重大学 医学部
Website

黒潮医療人養成プロジェクト ロゴマークについて



黒潮医療人養成プロジェクト

黒潮の“K”の文字を3色のブロックで表現し、黒潮の波のイメージを合わせています。

色は、和歌山県立医科大学がオレンジ、三重大学がグリーン、高知大学がブルーと各大学のイメージカラーを取り入れています。

ロゴは、白と濃紺でクリーンな医療のイメージと親しみのある印象の書体としています。

文 部 科 学 省
ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

黒潮医療人養成プロジェクト 令和4年度 事業報告書

(令和4年9月～令和5年3月)

高知大学・和歌山県立医科大学・三重大学

事務局 高知大学医学部病院事務部
総務企画課 地域医療支援室
TEL：088-888-2744
E-mail：kuroshiodmp@kochi-u.ac.jp



黒潮医療人養成プロジェクト